

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3571200231		
法人名	社会福祉法人 恒和会		
事業所名	グループホーム ゆうわ苑		
所在地	山口県 柳井市 伊保庄 字近長浜 1-4		
自己評価作成日	平成30年1月12日	評価結果市町受理日	平成30年8月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成30年2月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所者・入所者のご家族・職員を含め、大家族で生活しているという考え方のもとで、個人の能力を生活に生かし個人に合った過ごし方が出来るように努めています。また、季節感のある工作物の作成やお菓子作りなどを行事に取り入れ、職員共々楽しい空間作りを心がけています。地域のつながりも大切にし、地域の三世代交流運動会やお祭りにも参加させて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は職員と一緒に、地域の春祭りや神明祭、三世代交流大会、地区の運動会、地元の敬老会に参加されている他、法人主催の納涼祭や元氣祭りでの交流や事業所に来訪される親子コーラスやハーモニカ演奏、絵本の読み聞かせ、畑づくりのボランティア、施設内託児所の子も達との交流など、利用者が地域とつながりながらその人らしく暮らし続けられるように、職員は理念を意識されながら支援に取り組まれています。食事は法人の厨房からの配食を活用され、畑で収穫した旬の野菜を利用して一品料理をつくられたり、月見団子やフライドポテト、羊羹、チョコレートなどのおやつづくり、家族と一緒にの花見でのちらし寿司づくり、年2回のハンバイキング、季節の行事食(節句、七夕の五色ソーメン)、月1回の誕生日食など、食べることの楽しさを様々な工夫されて食事が楽しみなものになるように支援されています。生け花や季節の壁飾りづくり、居室の入り口の飾りづくり、新聞紙を使ったゴミ箱づくり、ハンガーかけ、ボール遊び、シャボン玉遊び、かるた、すごろく、福笑い、百人一首、漢字カード、カラオケ、歌を歌うなど、楽しみごとや活躍できる場面づくりをされて、利用者が張合いや喜びのある日々が過ごせるように支援されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念として「地域の皆さんと少しずつ交流を持ちながらその方らしい生活を送って頂く」という事を事業所内に掲示し、読むことにより職員全員が認識し実践できるようにしている。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり、事業所内に掲示している。職員は、出勤時に個々に確認し、ミーティング時に話し合い、利用者一人ひとりのペースでその人らしい生活を送ることを大切に、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人全体の行事(納涼祭・元気祭り)を主催したり、地域のお祭り(三世代交流運動会・春祭り・神明祭)に入所者・職員が参加したり地域の清掃活動に職員が参加して交流をしている。	地域の海岸清掃活動に職員が参加している。利用者は、地元の春祭りや神明祭、三世代交流大会、地区の運動会、敬老会に出かけている。法人主催の納涼祭や元気祭りに地域住民の参加があり、利用者と交流している。事業所には、親子コーラスやハーモニカ演奏、絵本の読み聞かせ、畑づくりのボランティアの来訪がある。法人施設内託児所の子どもの交流や家族との交流がある他、地域から饅頭等の差し入れがある。管理者は、法人全体でのオレンジカフェや認知症サポーター養成講座の講師を務めたり、地域での徘徊模擬訓練に協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体でオレンジカフェ、地域の小中学校や公民館で認知症サポート養成講座を開催したり地域の方と合同で徘徊模擬訓練を実施している。	/	/
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は、職員全員で行い、外部評価の結果はミーティングにて報告し改善方法について全員で話し合い検討している。	主任が職員に評価の意義を説明し、自己評価をするための書類に全職員が記入したものを主任がまとめている。評価を通して、課題を明確にし、利用者との接し方や家族との関係づくり、外出の機会の増加などに取り組んでいる。前回の外部評価結果を受けて目標達成計画を立て、評価項目の理解、運営推進会議のメンバー拡大、法人内研修の参加促進など、改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を年6回行い、毎回活動・現状・事故などの報告を行い様々な取り組みについても話し合い、意見交換を行いサービスの向上に努めている。	新たに民生委員をメンバーに加え、会議は年6回開催している。事業所の活動、利用者の状況報告、行事予定と報告、ヒヤリハットや事故の報告や対策等について説明し、意見交換している。そこでの意見をサービスの向上に活かしているとは言えない。	・会議を活かした取り組み
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	法人の地域連携室と協力体制にあり、運営推進会議を通じて報告・連絡・相談を行い助言をもらっている。	市担当者とは、運営推進会議時の他、直接出向いたり電話で相談して助言を得ているなど、協力関係を築いている。事業所が抱えている課題等については、法人の地域連携室の相談員を通して助言を得ている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の人権尊重委員会を設けており身体拘束に繋がる行為の理解を深めるとともにケアの工夫をしたり、身体拘束の研修を行っている。玄関は施錠されているが、開放の時間を設けて開放している。	身体拘束については、法人内の人権尊重委員会の研修で学び、職員は理解して、抑制や拘束のないケアに努めている。玄関の施錠は、開錠の時間を設け、外に出たい利用者には声をかけ、職員と一緒に外出しているなど、閉塞感を持たないよう配慮している。スピーチロックについても職員は理解し、気になる場合には、主任が助言や指導をしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても委員会で勉強会の実施を行い理解を深め、各部署にて防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在各制度による支援を必要としている該当者がいないこともあり、制度の活用や勉強会は実施していない。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面を利用し、ご家族に十分な説明と契約を行っている。契約書の改定があれば重要事項説明書を更新し、家族に説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に苦情相談受付担当者を掲示し意見箱を設けている。	相談や苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。面会時や運営推進会議出席時、誕生日会、お花見会、事業所の行事(納涼祭、敬老会)への参加時、電話等で家族の意見や要望を聞いている。毎月の事業所だよりに担当職員が、利用者の日常の体調や状況の変化を記入して送付しているなど、家族からの意見や要望が出しやすい雰囲気づくりに努めている。利用者のケアに対しての要望にはその都度対応している。運営に反映させるまでの意見や要望は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングにて積極的に意見を求めるとともに日頃から連絡ノートや口答で報告・連絡・相談を密にするよう努めている。	月1回のミーティングや職員の交代時間での申し送りノートで、職員からの意見や提案を聞く機会を設けている他、日常業務の中で主任が職員から直接聞いている。年に2回、主任が職員の目標管理シートを活用した個人面接を実施している。集約した職員の意見や提案は、主任が法人の企画会議に出席し伝えている。職員から、勤務時間や業務手順の変更等の意見があり、反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内で年2回人事考課と目標管理を行い職員の個々の努力や実績を評価するとともに通常行においても職員の向上心に配慮した業務配分を行うように努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に職員育成委員会を設け、年間を通じて様々な職員研修を計画的に実施しているとともに外部研修の機会も必要に応じて設けている。	外部研修は、職員に情報を伝え、受講の機会を提供している。法人研修は、毎月1回テーマを決めて開催し、身体拘束防止、認知症について、緊急時の対応、口腔ケアなどに希望者が参加している。外部研修や法人研修に参加した職員は報告書を作成し、勉強会を実施して職員で内容の共有に努めているが、十分とは言えない。	・計画的な研修の実施
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、研修や交流会の場には積極的に参加するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用の前に法人内であれば本人・ご家族とお話する機会を設けて関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談からご利用までに連絡を取り、話をきき関係づくりに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームは施設の性質上、相談を受けてもすぐに入所できない場合が多いため、早急な支援が求められる場合には、他施設サービスや在宅サービスについても説明している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で食事の準備・片づけ・洗濯物たたみ・干し・季節の壁面作りなどを出来る限り一緒に生活しているという関係づくりに努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃からなんでも話しやすい雰囲気づくりを心掛けるとともに、毎月ご様子を報告し、年数回ある家族の参加参加行事を行い、利用者・家族・職員の信頼関係が築けるように努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と話し合い、苑で出来る範囲の対応と家族の対応を両立させ、できるだけ自由に外出できるように支援している。	家族の面会や親戚の人、友人、知人、近所の人の来訪がある他、年賀状や手紙のやり取り、電話の取次ぎなどでの交流を支援している。法人の祭りや地区の運動会、敬老会に参加し馴染みの人と交流したり、家族の協力を得ての墓参り、外食、買い物に出かけるなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや体操など皆さんで過ごす時間を設けている。入所者同志会話をしている所も見られるが、聞き違いからトラブルになりそうな時などは、必要に応じて仲裁・見守りをするよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までサービスの利用のあった方は、季節の手紙にて続けている。ホームの近隣の病院に入院されている方には、折を見てお見舞いに出かけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中での言動からの意向の把握に努めている。はっきりと意思表示されない場合でもカンファレンスなどで意見交換し検討している。	入居時の基本情報やフェースシートを活用している他、日々の関わりの中での利用者の様子、表情、しぐさ、気づき等を、介護記録に記録し、思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は家族から聞き取り、職員間で話し合っ、本人本位で検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生活歴などを家族から聞き、日々の関わりの中での言動から意向の把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりと言動からの意向の把握に努めると共に、家事や作業の分配を工夫し1日の過ごし方を考えている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	2か月に1回のカンファレンス・モニタリングを行い入所者のケアの内容について情報交換・検討している。	2か月に1回、ケアカンファレンスを開催し、利用者を担当している職員と計画作成担当者を中心に、利用者の意見や家族の要望、主治医、法人の看護師、理学療法士、作業療法士の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。2か月毎にモニタリングを実施し、6か月毎に見直している他、本人の状態に変化が生じた場合は、その都度話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の詳しい言動やそれに対しての職員の対応を個別に記録し、勤務ごとの申し送りで活用し、カンファレンスや介護計画に役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月に1回程度の行事の実施や車での外出、または個別の要望にも出来る限り応じるなど、グループホームだからこそできる支援の充実に努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人を通じて協働している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、地域にかかりつけ医がある方は、引き続き利用され、特にない方は協力機関をかかりつけ医とし、1か月に1回程度の定期受診、特変時に対応できるようにしている。	事業所の協力医療機関の他に、利用者や家族が希望する医療機関をかかりつけ医としている。他科受診は、家族の協力を得て支援している。受診時には、個人毎の受診ノートを持参している。訪問歯科診療があり、希望により口腔ケアを毎週受けることができる。法人の看護師が毎日来訪し、健康相談や必要な処置を行っている他、緊急時には法人看護師と連携して対応しているなど、適切な医療を受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護職員と連携を取りながら日常の健康管理を行っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人のお見舞いもかねて直接情報交換や相談に行くとともに、家族とも随時連絡を取りながら、退院時のスムーズな受け入れができるように努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日常的に医療行為や管理が必要となった場合には、対応が困難なため家族と話し合い医療機関への入院が主となっているが、重度化についてはどこまで対応できるかが曖昧なため家族と協議し支援に取り組んでいる。	契約時に、事業所のできる対応について家族に説明をしている。重度化した場合には、主治医や看護師、家族と十分に話し合い、入所施設や医療機関への移設も含めて方針を決めて、全員で共有し、支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	法人に委員会が設けられており、勉強会に参加し事故防止に取り組むと共に応急手当が出来るように職員は消防署の救命救急講習を受けている。	事故報告書、ヒヤリハット報告書に、その都度、発見者が記録し、他の職員には申し送り時に報告している。記録は法人にも回覧し、看護師からの助言を得て随時話し合い、月1回のミーティングで再度検討して、法人内の事故防止委員会に報告し助言を得て、再発防止に取り組んでいる。事故発生への対応については、緊急対応マニュアルを整備し、年2回法人内で救急救命講習を受講しているが、職員全員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行い部署の具体的な避難方法について学んでいる。法人を通じて地域の方に協力が得られるように努めている。現在、風水害の訓練も検討している。	年2回、法人全体の総合訓練として、昼夜間を想定した火災時の避難訓練、消火訓練、通報訓練、避難経路の確認を利用者も参加して実施している。訓練には地域の消防団が参加している。法人の建物は、災害時の地域住民の避難場所となっている。法人全体として備蓄を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わり(排泄介助・入浴介助など)の中で言動に配慮している。ケース記録は人の目につかないところで記録している。	職員は、研修(人権尊重委員会、サービスと質の向上委員会、コンプライアンス委員会)で学び、理解して、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中や個人の生活リズムを理解し希望の表出や自己決定できるような声かけをするように努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・入浴・食事・就寝時間はおおまかに定めているが、その時々希望や体調により臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院は家族対応にてなじみのお店に行かれたり、苑の美容サービスを利用している。行事や外出の時には、本人の気持ちを確認しながら前日に洋服を選んだり、当日お化粧をしたりして気分のもりあげを行ったりしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、法人の厨房から決まった献立が調理済みでもらえるものを盛り付けている。ご飯と汁ものは事業所で用意している。畑の野菜を入所者と収穫して1品料理を作ることもある。アレルギー・好みにより食材の変更・形状の変更も可能となっている。	食事は法人の厨房からの配食で、ご飯と汁物は事業所でつくっている。畑で収穫した野菜（白菜、大根、カブ、キュウリ、ナス、トマト等）を利用して一品料理をつくることもある。利用者の状態に合わせて、お粥やきざみ食、ミキサー食など食事の形態を工夫している。利用者は、味見やテーブル拭き、下膳、食器洗い、お盆拭きなど、できることを職員と一緒にやっている。利用者と職員は、同じテーブルを囲み会話を楽しみながら、同じものを食べている。おやつづくり（月見団子、フライドポテト、羊羹、チョコレート）、家族と一緒にの花見でのちらし寿司づくり、年2回のパンバイキング、行事食（おせち、節句、七夕の五色ソーメン、クリスマス）、月1回の誕生日食など、食べることの楽しみを工夫して、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に応じた栄養バランスとなっており、食事量は毎食の摂取量を記録している。食事時、10時、15時、19時以外にも日中や夜間もこまめな水分補給を行っている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回毎食後のうがい、夕食後の歯磨きを本人のペースに合わせてやっている。義歯は夕食後預かり、ブラッシングを行い毎日ポリドントで洗浄している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の記録をもとに一人一人のパターンや習慣をみつけできるだけ本人の能力を活かしたり、タイミングを見計らい声かけを行い排泄を促している。夜間もポータブルトイレを利用して本人の自立に向けた支援を促している。	日常生活記録表を活用し、時間を見図りながら、利用者一人ひとりに応じた声かけや誘導で、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	カンファレンスなどを利用して個別に原因などを話し合い飲食物・運動・服薬を工夫している。排便・排尿状況についても記録している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は、土曜日曜以外15時～17時の間に入浴が出来る、本人のペースで楽しんで頂いている。土曜日曜には、足浴の機会にて足湯を楽しんで頂いている。また、体調により入浴ができない時には清拭・更衣を行っている。	入浴は、土、日曜日以外の毎日、15時から17時までの間可能で、利用者の希望や体調に合わせて支援している。利用者の状態により清拭やシャワー浴、足浴などへの対応やハーブ湯やゆず湯で香りを楽しんだり、歌を歌って入浴が楽しめるように支援している。入浴したくない利用者へは声かけの工夫や職員の交代、時間の変更など、個々に応じた入浴を支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、お昼寝をされる方はして頂き、夜間は本人に任せ、体調や生活習慣や気分に合わせて眠れるように促している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の担当を決め、担当者中心に薬の管理を行っている。薬局から頂いている一覧をカルテにいれ、全職員が把握に努めている。本人の状態については、主治医・薬剤師に書面やご家族を通して情報を提供している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や後片づけ・掃除・洗濯・畑の手入れなど個人の得意分野を活かせるように支援している。	ぬり絵、ちぎり絵、折り紙、書き初め、生け花、季節の壁飾りづくり、居室の入口ドアの飾りづくり、新聞紙を使ったゴミ箱づくり、野菜の収穫、洗濯物たたみ、ハンガーかけ、おやつづくり、食事の準備、ボール遊び、ボーリング、シャボン玉遊び、かるた、すごろく、福笑い、百人一首、計算ドリル、漢字ドリル、漢字カード、ゲーム、テレビの視聴、カラオケ、新聞の購読、歌を歌うなど、利用者一人ひとりの楽しみごとや活躍できる場面づくりをして支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が穏やかな日は、戸外にでて散歩や畑の手入れを楽しんでいる。月に1回程度バスハイクなど外出支援を行っている。	近隣への散歩や買い物、畑の手入れ、地域の祭りへの参加、花見(桜、紫陽花、つつじ)、フラワーランドへのバスハイク、パン屋に出かけたり、家族の協力を得ての墓参り、買い物、外食、外出など、戸外に出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の金銭所持はトラブルになるため認めていない。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時には電話をしたり、家族に季節の手紙を送ったり、手紙が届いた時には手渡したりしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った壁面飾りや小物を作成したり、外の景色を眺めながら日なたぼっこをしたり、花を生けたり、しながら見た目にも楽しい雰囲気作りを行っている。照明は入所者の意向を確認しながら調整している。季節により加湿器も使用している。	リビングダイニングの大きな窓ガラスからは、緑の木々や自然の景色を眺めることができ、中央には自由に配置換えできる食卓テーブルを設置している。畳のある部屋には大型テレビを置いて、その前にはゆったりとしたソファを配置し、仲の良い利用者同士がくつろいでいる。壁には職員と利用者が作成した季節の作品を展示している。廊下には、異動しやすいように手すりを設置し、所々にソファを置いている。室内の温度や湿度、換気に配慮し、利用者が自由に居心地良く過ごせるよう工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には居間をイメージしたTVや畳スペース、ソファなどを設置し入所者が思い思いに過ごせるように工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのある小物やタンスなどが持ち込み自由になっていて、ベッド・棚・カーテンは備え付けの物を使用している。居室には本人が苑で作ったものなどが飾っている。	使い慣れた寝具や衣装がけ、テーブルや椅子、電気毛布、アンカ、時計、温度計などを持ち込み、家族写真やスナップ写真、カレンダーを飾って、利用者が安心して暮らせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリー設計になっており、廊下・手すりを設置している。浴室は一般浴槽の為個人の身体能力にあわせて支援している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム ゆうわ苑

作成日: 平成 30 年 8 月 6 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	14	外部研修・法人研修に参加し報告書を作成し勉強会を実施し共有に努めているが、十分とは言えない	GH内として計画的な研修を行う	①月1回(年12回)GH内での勉強会を行う ②研修内容を決める ③職員一人一人が資料作成し説明する形をとる	1ヶ月
2	35	事故発生への対応について緊急対応マニュアルを整備し、救急救命講習を受講しているが職員全員が実践力を身につけるまでには至っていない	事故に対しての実践研修を行う	①緊急時の対応を研修する ②実践をくり返して行う ③問題点はすぐに話し合う	3ヶ月
3	5	運営推進会議にて取り組み状況等の報告や事故の説明・対策を行い意見交換をしているがその意見をサービス向上に活かしていない	取り組み課題を決める	①GHとして取り組み課題を決める ②運営推進にて説明し意見を交換する ③意見をもとに課題にとりくむ	3ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。